

Be-News

別府大学のアツい想いをスクープ



別府大学
別府大学短期大学部

NO.127
2023 AUTUMN

Beppu University, Beppu University Junior College Magazine

Be-News

特集

ンパガル

を考えよう。

研究室訪問 学びのトビラ
クローズアップ別大生
国際交流
地域連携

編集／別府大学・別府大学短期大学部 広報室 発行日／令和5年9月29日 印刷／株式会社 佐伯コミュニケーションズ
別府大学・別府大学短期大学部 〒874-8501 大分県別府市北石通82 TEL.0977-66-6262(広報室)
禁無断転載



LINE@



真理はわれらを自由にする

Be-Museum



《海》

古賀 滋野 (文学部 国際言語・文化学科 芸術表現コース 令和4年度制作)

絵具の素材の一つである鉱物は、地球の誕生や海の神秘性と繋がり、
その「色」を通じて自然界の不思議さを感じさせる。
そういう思いで描いた作品である。
(F20号 紙本 日本画(膠彩))

ととのバーニャソース



「ととのバーニャソース」うま味や香りが引き立ち、深みのある味わいです。



令和5年3月25日～26日の2日間、学生と共にトキハ本店(大分市)で試食と販売を実施したところ、多くのお客様にお買い上げいただきました。



野菜スティックやパスタのソースにも!!



湯けむり洋菓子店とのコラボ商品「ととのみそ&生ハムのスコーン」

※現在「ととのバーニャソース」は仕込み中のため、販売を休止しています。販売再開になりましたら、大学のwebサイト等でお知らせいたします。

短期大学部食物栄養科の岡本昭教授(専門:水産学)、藤岡竜太准教授(専門:生化学)らプロジェクトチームは、令和2年から水産物を原料にした発酵調味料「ととのみそ」の開発に取り組んできました。通常、味噌は大豆を原料として製造しますが、「ととのみそ」はマダイの身を麹で発酵させて製造しています。味噌と比較して、遊離アミノ酸や有機酸、香りの成分が多彩であり、豊かな味わいが特徴です。

これまで別府市の湯けむり洋菓子店とコラボし「ととのみそ&生ハムのスコーン」を開発し、お店の人気メニュー

になっています。今回、新たに宇佐市の(株)G Japa Foods(ジージャパンフーズ)と共同して「ととのみそ」をベースにした調味料「ととのバーニャソース」を開発しました。イタリア・ピエモンテ州の郷土料理である「バーニャ・カウダ」を参考にして「ととのみそ」にオリーブオイルやにんにくを合わせたディップタイプの調味料です。

野菜につけるだけでなく、スパゲッティやパスタのソースとして利用することができます。また、パンやチーズとも相性が良いので、幅広くお料理にご活用いただけます。

特集

ツナガルを考えよう。

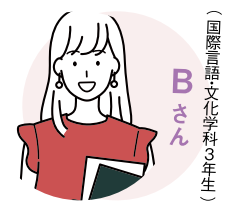
大学では多くの人との出会いがあります。さまざまな価値観を持つ人との出会いや経験が、自分の可能性を大きく広げる機会となります。新型コロナウイルスの行動制限が緩和されて、オンラインから対面での交流が増え、「これまでできなかったことにチャレンジしてみたい」「一歩踏み出したいけど勇気が出ない」と考えている人もいるのではないのでしょうか。コロナ禍が明けた今だからこそ、人と人のつながりについて考えてみませんか? 「つながり」について考えてみる特集です。

Be-News NO.127 CONTENTS

3	特集 ツナガルを考えよう。
9	さつき祭
10	学科からのトピックス
14	クローズアップ別大生 大木 優人さん (文学部 史学・文化財学科 3年) 甲斐 萌夏さん (短期大学部 初等教育科 2年)
16	研究室訪問 学びのトビラ 国際経営学部 国際経営学科 講師 小野 貴史
17	サークル紹介 沖縄エイサー団 居合道同好会
18	卒業生インタビュー こんにちは先輩!! ビストロ輝オーナー 糸永 吉輝さん 高尾 莊 女将 山田 美耶さん
20	国際交流
21	地域連携
22	学園事業報告
23	インフォメーション

ズナガル

友達つきあいについて考えてみた。座談会



17世紀のフランスの哲学者、フランシス・ベーコンは言いました。「友人が無ければ世界は荒野に過ぎない」と。しかし現代の人間関係は、とても複雑になっています。大学生になって友達をつくりたいと思う学生もいれば、友達づくりは面倒という学生もいるでしょう。今回は3名の別大生に、「友達つきあい」をテーマに本音で話してもらいました。大学生は友人関係をどのように捉えているのでしょうか。みなさんもぜひ一緒に「友達つきあい」について考えてみてください。

別大生になってからのトモダチ関係は？

川崎先生… 大学に入学して友達関係について考え方が変わった？

Cさん… 今年の春、県外の高校から入学してきた僕は、何もかもが初めての環境に放り込まれた感じなので、やはり友達がいると心強いですね。

Aさん… 僕も県外出身で、別府で暮らし始めて3年が経ったけど、常に誰かそばにいて欲しいタイプです。普段一緒にいる友達の考えを時間をかけて聞くこともあり、そこから学ぶことも多い。

Bさん… 私は、キャンパスに限らず、外部



トモダチづくりに「コミュニケーションは必要なのか」

川崎先生… SNSから友達関係が深まるとかあるのかな。

Aさん… X(旧ツイッター)で、同じアイティストが好きな人がいると、だいたいわかりますね。そのうちの一人と親しくなり、一緒にライブへ行くようにもなりました。同じ趣味を持つ者同士、一対一で話せるまでの段階になると距離感がどんどん縮まります。リアルに集団の中で話す時、どうしてもいろんなことを考えてしまう。

Bさん… インスタでの相互フォローは、よくやっています。せっかくなので、とにかく繋がっておこうかって(笑)。リアルだと相手の趣味や考え方でわからないけど、SNSの発信で意外な横顔に気が付くこともあります。

Cさん… 僕は知ってる人しかフォローしないので、SNSで新しい友達が出来た経験はありません。ただ二人の話を聞いて、共通の趣味があると話すネタがあるから、SNSを起点に交流を深められそうだと思います。

すっぴんの自分を知るトモダチっている？

川崎先生… 友達の前で、ありのままの自分を見せるのは難しい？

Aさん… 素の自分を出すタイミングは考えます。高校時代はクラスで一緒にいることが多かったから、どう思われようが気にせずいられたけど、大学は少し違う。このまえ地元に戻った時、「話し方変わったよね」と言われたんですよ。それまで一人称

気にはあります。

Bさん… 私は一回話せば友達だと思ってしまうですね(笑)。普通にご飯食べに行ったり、温泉に行ったり、他愛のないお喋りをしたり…。ただ入学してから、それまでつきあいのあった子と折り合いが悪くなったこともありまして。それでもあまり気にせず、我が道を行ってるのかもしれない(笑)。

川崎先生… あらためて聞くけど、友達って必要だと思う？

Bさん… 自分の価値観や経験値を広げてくれるので、やはり必要だと思う。誰一人として同じ考えはないとは思っていたけど、今日二人の話を聞いて、相手を思いやりながら接することは大切だなと思いました。

Aさん… 最初に話したとおり、いつもそばに友達がいた方が安心する。ただ広く浅く係わる友達を沢山作るより一人でもいいから、じっくり心を通じ合える友達がいれば十分かな。

Cさん… 先輩たちの話を聞いて、友達という言葉にとらわれすぎない方がいいのかなと思いました。共感できる部分もあったし、見習いたいと思うこともありました。これからは自分なりに友達のあり方を考えていきたいです。



ズナガル座談会に参加して

人間関係学科准教授 川崎 隆 先生



アクションを起こせばきっと何かが見えてくる

私は学生相談を通じて、臨床心理学の研究に取り組んでいます。悩みを抱える学生の話を聴き、そこからどのような一歩を踏み出すのかを考えるお手伝いをしています。

学生の悩みの中で、多いのは対人関係です。対人関係は複雑で正解もなく、悩ましい限りのものですが、対人関係に悩むことの意義は深く、そこから得るものもきっとあります。友達づくりのキッカケがわからないときもあるかもしれませんが、もししたら相手もそのように考えていて動けないのかもしれない。試しに、自分から行動を起こしてみるといいでしょう。

友達づくりを通じて自分が何をしたいのか、どうなりたいのか、という視点から考えてみるのもいいでしょう。学生時代に限らず、人間関係は一生悩み続ける(べき)テーマです。しっかりと向き合っていくようにしましょう。一人では抱えきれないというときは、教職員や学内の相談機関等に頼ってみるのいいと思います。みんなで応援します！



ツナガリ 吹奏楽団・ジビエサークル

きっかけは“ジビエ”

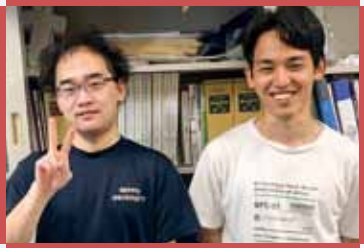


学科も吹奏楽団でも一緒なのですが、なかなか話す機会がありませんでした。でも、ジビエサークルの活動がきっかけでよく話すようになりました。お互いに仲良くなる人が似ているので波長が合うのだと思います。

左から／発酵食品学科2年 さっちゃん／発酵食品学科2年 りいちゃん

ツナガリ 研究室・ジビエサークル仲間

くだらないことを気兼ねなく



授業だと話しかけるハードルが高いので、話す機会やきっかけや機会が作りやすいサークルや研究室内の活動に参加するとよいと思います。主に研究室でしか会わないけどくだらないことでも気軽に話せる気の置けない友達です。

左から／発酵食品学科4年 多川 優也さん／発酵食品学科4年 上尾 光司郎さん

ツナガリ 同じ学科（初等教育専攻科）

教員目指して日々精進



お互いのいいところ

ちかさん → あきなさん
いつも笑顔で話してくれる

あきなさん → ちかさん
やり抜く力があるところ

左から／専攻科初等教育専攻1年 ちかさん／専攻科初等教育専攻1年 あきなさん

お互い小学校の先生を目指しているので、授業が被ったり、共通の友達がいたことがきっかけで仲良くなりました。目標が同じなので、授業の相談や悩みを一緒に考えて共有できるが心強いです。

ツナガリ ファンビレッジ寮

寮生ならではのつながり



お互いのいいところ

おのしゅん → りょうやくん
思い切りがいいところ

みずけん → おのしゅん
ものまねが上手い

りょうやくん → こうっち
エピソードトークが上手い

こうっち → みずけん
一生懸命に何ごとにも取り組む

左から／史学・文化財学科1年 こうっち／人間関係学科1年 りょうやくん／国際言語・文化学科1年 おのしゅん／史学・文化財学科1年 みずけん

サークルや寮での生活で人とのつながりが増えました。寮では談話室で一緒に課題をやったり、出身県の方を教えあったりしてます。入寮するまでは、地元の友達が多かったのですが寮生活で色々な県、地域の人と友達になりました。

ツナガリ バレーボール部

自由な時間を活かして



学科は一緒ですが、授業はほとんど被らないので、バレー部の活動やお昼ご飯と一緒に食べたりして交流しています。大学生活は自由な時間が増える分、サークルやゼミ、バイトなどで人との出会いの場が増えました。

左から／史学・文化財学科3年 なっちゃん／史学・文化財学科3年 わたぼん

ツナガリ 昼ごはん仲間

個性的だけど似たもの同士



大学はクラスに縛られずいろんな人と出会う機会があるので、自分と性格や考え方が似ている人からつながりを作ることをおすすめします。個性的だけど似たもの同士の集まりなので、学科やサークルを越えて仲良くなれました。

左上から／史学・文化財学科3年 ミヨシ／史学・文化財学科3年 ヒエダ／史学・文化財学科3年 ニシカワ／史学・文化財学科3年 フカガワ／国際言語・文化学科3年 タケナカ

ツナガリ 高校からの友達

はじめりはテニス



お互いのいいところ

羽田野さん → 池永さん
謙虚で器が大きいところ

池永さん → 羽田野さん
誰とでも友達になれるところ

左から／人間関係学科3年 羽田野 皓雅さん／国際経営学科3年 池永 直樹さん

同じ高校に通っていて、テニスを通じて仲良くなりました。大学では自分から積極的に話しかけ、授業以外のイベントや地域連携のプロジェクトなどにも参加したことで他学科の学生とのつながりが増えました。

ツナガリ 同じ学科（人間関係学科）

課外活動で広がるつながり



お互いのいいところ

松本さん → 朝見さん
裏でコツコツ努力をしているけど、周りにはそれを見せないところ

朝見さん → 松本さん
誰にでも臆せずに話しかけに行ける

左から／人間関係学科4年 松本 彼方さん／人間関係学科4年 朝見 愛梨さん

学内外のイベントやボランティア活動に参加する中で自然と仲良くなっていきました。そういった活動に積極的に参加することで学外の人とも仲良くなり、経験などをお互いに話すことのできるいい関係のつながりが出来ました。

学生広報
ウインクルム取材

突撃！

トナリの関係値



ウインクルムの学生たちが、2人組やグループで休み時間を過ごしている学生に関係性や人とのつながりの広げ方を聞いてみました。

ツナガリ 授業仲間

偶然から友達に



お互いのいいところ

井上さん → 羽田野さん
どんなボケでもツッコんでくれる

羽田野さん → 井上さん
積極的に話しかけてくれる

左から／国際言語・文化学科1年 井上 智貴さん／史学・文化財学科1年 羽田野 颯斗さん

たまたま受けている授業が一緒になり、話しかけたのがきっかけで仲良くなりました。入学してからの繋がりなので、知り合って日は浅いですが、明るくてなんでも話せる友達です。

景品
ゲット!

文化系
サークル展示

キッチンカー
出店

モルック
体験

映像
クイズ

第41回
さつき祭
テーマ..謳歌

第41回さつき祭
実行委員のみなさん

演劇部
公演

エイサーの
演舞

ベスト
オブ別太

白熱
ライブ

令和5年5月27日(土)・28日(日)、「第41回さつき祭」を開催しました。今年度は4年ぶりに一般入場も可能になり約300名が来場しました。2日間を通して各サークルのステージ企画や展示、ワークショップが行われ、コロナ禍前の盛り上がりが見られました。今年のテーマである「謳歌」のとおり、大学生活を全力で謳歌する学生たちの生き生きとした姿を見ることができた、さつき祭となりました。

高校時代に比べて授業のグループワークで色々な人とコミュニケーションを取る機会が増えました。知り合ったきっかけは人それぞれですが、クラスで過ごしていくうちに自然と仲が深まりました。

左上から／初等教育科1年 かずくん／初等教育科1年 いなずま／初等教育科1年 しゅうちゃん／初等教育科1年 たまき

お互いのいいところ
かずくん→いなずま
傾聴力があって笑顔が素敵

いなずま→たまき
話しかけやすくてノリがいいところ

お互いのいいところ
しゅうちゃん→かずくん
発言にこまめに反応してくれる

たまき→しゅうちゃん
優しく笑顔がすてき

ツナガリ
クラスメイト

グループワーク
でつながる

ツナガリ
バンド仲間・クラスメイト

目立ちたがり屋
3人組

ツナガリ
高校からの友達

進学しても
仲良し

ツナガリ
別府BBS会

空コマは、
近くのお店へ

左から／初等教育学科2年 ぶっきー／初等教育学科2年 りゅうちゃん／初等教育学科2年 かっちまん

左から／初等教育学科1年 しょうとうさん／初等教育学科1年 ねーさん／初等教育学科1年 いぶさん

左から／人間関係学科1年 ありかさん／人間関係学科1年 あみさん／人間関係学科1年 みゆなさん

ツナガリを考えよう。

今回は「人と人のつながり」をテーマに、座談会とインタビューを行いました。

別大生が本音で語った「友達トクに、皆さんはどのように感じたでしょうか? 座談会では対人関係へのモヤモヤした気持ちをみんな共有したことで、心が少し軽くなりました。「友達には必要?」「相手はどう思っているか気になる?」など、答えが難しい問いもありましたが、誰かと話すことの大切さを感じました。ぜひみなさんも「友達」について考えてみてくださいね。

インタビューでは、人と出会ったり、つながるには、きっかけ作りが大切という意見が多くありました。サークルやボランティア活動など、話すきっかけを作りやすい活動への参加するのがよさそうです! 私たちも、今回のインタビューは、きっかけづくりを体験する機会になりました。さまざまな学科や学年の学生の方と話をすることは、驚きの発見の連続で、新たな価値観に触れ、視野を広げる機会になりました!! いろんな考え方に触れることが、自分の可能性を広げることかな、と思いました。

みなさんも、一歩を踏み出して、つながりを広げてみませんか?

新聞を読み解くコツをつかむ！ 大分合同新聞社による新聞の読み方講座



記事を読み、見出しをつけるワーク。要約のセンスが問われます



新聞の特徴を説明する三股氏

新聞を読み、見出しをつけるワーク。要約のセンスが問われます

新聞の特徴を説明する三股氏

新聞を読み、見出しをつけるワーク。要約のセンスが問われます

新聞を読み、見出しをつけるワーク。要約のセンスが問われます

ネットニュースが便利な現代において、若者の多くは新聞を古いツールだと思っています。しかし、新聞記事の客観性と正確性は極めて重要ですし、そもそもネットニュースの元ネタのほとんどは新聞です。社会人になれば、国内外の政治、経済、文化に関する幅広い知識が求められます。また、教員になれば、教材として新聞を活用する機会もあります。

国際言語・文化学科では、「重要な情報ツールとして新聞をとらえてほしい」と、6月2日に「日本

語学講義3（担当…森脇茂秀教授）で、大分合同新聞社地域連携室の三股秀明室長と佐藤良昭氏を講師として迎え、新聞の読み方講座を実施しました。

講座では、三股室長が「紙面の構成や記事がどのように書かれているか」を解説し、後半では、記事の内容を基に印象的な見出しを設定するワーク・シヨップが行われました。

受講学生からは、「新聞を読むことへのハードルが下がった」「どのように読んだら効率よく、情報を入手できるか学べた」「新聞を有効に活用して、客観的な視野で世の中の動向を感じたい」などの多くの感想が出ました。

附属図書館では各社の新聞を読むことができますので、学生の間に新聞に目を通す習慣をつけましょう。

03

国際経営
学科

台湾学生との国際交流 台湾龍華科技大学交流事業



歓迎セレモニーで、参加者全員で記念撮影



大学創設のエピソードを留学生が紹介



香りの博物館の香水コレクションを見学

6月23日、台湾龍華科技大学の学生と国際経営学科の学生が交流事業を実施しました。観光・地域経営コースの学生（3年）10名と台湾留学生（2年〜4年）4名の14名と教員3名が参加しました。事前に、担当教員と台湾留学生が講師となり、台湾の基礎知識と台湾語会話の講座を実施して交流に備えました。

当日は、メディアホールにおいて歓迎セレモニーが行われ、友永学長より歓迎挨拶と大学紹介がありました。その後、3グループに分かれ、自己紹介の後、キャンパス見学に向かい

ました。台湾出身の留学生が、18号館の佐藤義詮記念館では、草創期の大学について教員が説明した内容と、図書館では職員による説明を、通訳しました。大分香りの博物館では、珍しい香りをテーマにした展示や歴史に関心があつたようでした。

最後に博物館玄関前で集合写真を撮り、名残惜しそうに台湾語や日本語、英語、ジェスチャーを交えて会話が盛り上がっていました。短い時間ではありましたが、今回の交流事業はコロナ禍での学生生活を送ってきた学生にとって貴重な国際交流の機会となりました。

「パリポリくろちゃん」で 永野衣祝さんが審査委員特別賞を受賞

漬物グランプリ2023 学生の部入賞

全日本漬物協同組合連合会主催の「漬物グランプリ2023 学生の部」で、発酵食品学科2年の永野衣祝さんの作品「パリポリくろちゃん」が、審査委員特別賞に選ばれました。審査委員特別賞は、グランプリ、準グランプリに次

ぐ賞で、4月29日に東京都の東京ビッグサイトで賞の発表と表彰式が行われました。

「漬物グランプリ」は、日本の伝統的食文化の漬物の魅力を広めることを目的に毎年開催され、漬物業界にとって重要なイベントです。永野さんは、漬

物製造を体験する「発酵食品加工実習」の授業で講師を務める別府漬物有限会社（「つけもの王子」として知られる）三浦好徳さんから漬物の製造方法と歴史や魅力について学び、「漬物グランプリ」についても知る機会を得て、今年度から創設された「学生の部」への応募を思い立ちました。

永野さんは、今年の春休みを利用して漬物づくりに取り組み、大分県特産のクロメ（海藻）とカボスを使用した「パリポリくろちゃん」を考案。三浦さんに指導を受けてレシピを完成させました。

「パリポリくろちゃん」は、佐賀県で取れたクロメのとり

とろした食感と、野菜のパリッとした食感とカボスのさわやかさがマッチした漬物になっています。カボスと同じ柑橘類のみかんを加えることで、カボスの酸味とみかんの甘味が調和しておいしく仕上がり、ともに、拍子木切りにした胡瓜、人参、大根と合わせて見栄えを良くしたので、サラダやおやつ感覚で食べてもらえます。クロメやカボス、みかん、野菜など大分県らしさへのこだわりもポイント。

「パリポリくろちゃん」の開発を通して、調味液の配合をほんの数グラム変えただけで違う味になるので漬物作りは奥が深く、同じ味を守り続けることの難しさを知ることが



「パリポリくろちゃん」大分産の食材を組みあわせ、食感と見た目にもこだわっています



授賞式を受け、友永学長はじめ関係者が出席し、学内で受賞報告会を開催しました

物製造を体験する「発酵食品加工実習」の授業で講師を務める別府漬物有限会社（「つけもの王子」として知られる）三浦好徳さんから漬物の製造方法と歴史や魅力について学び、「漬物グランプリ」についても知る機会を得て、今年度から創設された「学生の部」への応募を思い立ちました。

永野さんは、今年の春休みを利用して漬物づくりに取り組み、大分県特産のクロメ（海藻）とカボスを使用した「パリポリくろちゃん」を考案。三浦さんに指導を受けてレシピを完成させました。

「パリポリくろちゃん」は、佐賀県で取れたクロメのとり

とろした食感と、野菜のパリッとした食感とカボスのさわやかさがマッチした漬物になっています。カボスと同じ柑橘類のみかんを加えることで、カボスの酸味とみかんの甘味が調和しておいしく仕上がり、ともに、拍子木切りにした胡瓜、人参、大根と合わせて見栄えを良くしたので、サラダやおやつ感覚で食べてもらえます。クロメやカボス、みかん、野菜など大分県らしさへのこだわりもポイント。

「パリポリくろちゃん」の開発を通して、調味液の配合をほんの数グラム変えただけで違う味になるので漬物作りは奥が深く、同じ味を守り続けることの難しさを知ることが

できたそうです。「パリポリくろちゃん」の商品化についても現在検討中で、漬物をもっと食べてもらうことで健康に良い野菜の摂取量を増やして健康寿命の延伸に貢献できると期待しており、永野さんは漬物を含めた大分県産の新しい食品の開発へのチャレンジに意欲を燃やしています。



ビックサイトで行われた表彰式で喜びを語る永野さん



大分市のイベントでも入賞を報告

旬の食材・温泉を使ったからだに優しいイタリアン

令和5年度 料理講習会

07

短期大学部
食物栄養科

梯先生の説明を真剣に聞く参加者のみなさん



旬の食材を使ったイタリアンが完成!

一般の方へ向けた食物栄養科の料理講習会を、7月29日に開催しました。「旬の地元食材・温泉を使ったからだに優しいイタリアン」と題し、別府市鉄輪のレストラン「オットエッセテ オオイタ」の梯哲哉オーナーシェフをお招きしました。大分県の豊かな食材と、温泉熱を利用した梯先生のイタリアンは多くの方から支持されており、本講習会もたくさんの方の申し込みをいただきました。

調理実習では、とうもろこしの冷製フラン、蒸しナスのボルベッタ（ナスを使ったベジタブルミートボール）、鰯ときゅうりのパスタを作りました。とうもろこし、ナス、パスタは調理過程で温泉水を利用しました。梯先生の丁寧な説明と繊細かつ躍動感あるデモ、そして優しい笑顔に全員魅了されました。イタリア料理講習会は初めての方も多く、「初めての料理ばかりでとても興味深かった。特にナスのボルベッタがお肉のようで驚いた」「専門的な知識のみならず、料理の基本まで細かく教えて頂きとても参考になった」などの感想が寄せられ大盛況に終わりました。調理の補助に入った1年生も調理技術やコミュニケーション能力を高める良い機会となりました。



見事なフライパン捌きでパン粉を炒める梯先生

海の厄介者“アイゴ”をおいしく食べよう

魚食文化に関連する食育事業

04

食物栄養
学科

スープを彩りよく盛り付ける学生



Soup Stock Tokyo(東京都青山)による「アイゴと夏野菜のサフランパイヤベス」のレシピを参考に調理

食物栄養学科では、本年度、農林水産省の補助金を受けて、大分県と連携し魚食文化に関連する食育事業に取り組んでいます。その一環として7月26日に食物栄養学科の1年生が未利用魚（佐伯産アイゴ）を用いた調理実習を行いました。アイゴは、背びれや腹びれに毒のトゲを持ち、独特の臭みがあるとして食用に流通されず「未利用魚」と分類されています。また、アイゴは、海藻を食べることから磯焼け（海中の藻場が衰退して砂漠化すること）の原因にもなっています。今年度の事業では、漁業見学や食文化講演会なども予定しており、管理栄養士を目指す学生たちに、SDGsの観点から健康や栄養を考える機会としたいと思います。

り、地球温暖化によるアイゴの増殖は海の豊かさを脅かす大きな問題となっています。今回は、アイゴの干物を使ってスープを調理しました。フライパンで香ばしく焼き上げた干物を、セロリやズッキーニ、トマトなどの夏野菜が入ったスープに合わせ彩りよく仕上げました。アイゴは焼くと鯖のような味わい。学生たちは「干物を使ったので、調理が簡単だった」「こんなにおいしい魚が食べられていないなんてもったいない」と、たくさんの方の気づきを得ていました。

08

短期大学部
初等教育科

伝統の研究会。多彩な活動で活発に!

初等教育科の研究会活動



平和市民公園能楽堂での発表

初等教育科研究会一覧

- ハンドベル研究会 ■子どもヘルスプロモーション研究会 ■授業研究会 ■外国語文化研究会 ■表現研究会 ■おはなし研究会ともだち屋 ■特別支援教育研究会コネクト ■保育のたまて箱ピコロ ■造形研究会 ■ハンドメイド研究会あっぷりけ ■子育て支援研究会ぴすけとくらぶ ■表現研究会はびねす

各研究会は、保育や教育に関わる研究に取り組みながら、今後も地域へ活動の場を広げていく予定です。

研究会の活動が多岐に渡り活発化しています! 5月14日、平和市民公園能楽堂(大分市)で行われた「マイファースト能楽堂」でも広場―親子の思い出時間―では、「おはなし研究会ともだち屋」と「ハンドメイド研究会あっぷりけ」が歌や踊り、劇のパフォーマンスを行いました。荘厳な能の舞台の上で発表、演じるということでした。学生たちにとっても貴重な体験になったようです。観覧された子どもたちやご家族からも楽しそう

な声が上がりました。別室では、「造形研究会」と「子育て支援研究会ぴすけとくらぶ」が、お面作りのワークショップを実施し参加者と一緒に制作を楽しみました。また「保育のたまて箱ピコロ」は、6月28日、7月12日と2日間に渡り「パネルシアター劇団DANパネ団」の渡辺繁治先生に来ていただき、パネルシアターを行う時の立ち位置や動かし方、ダイナミックに魅せるコツなどを教えていただきました。

06

人間関係
学科

現代社会の諸問題をテーマに

卒業論文中間報告会

6月28日に人間関係学科の卒業論文中間報告会を行いました。4年生約70名が、卒業論文の研究内容を数枚のパネルにまとめ、在学生たちの前で報告しました。「児童期の習いごとが自尊心に及ぼす影響」「知的障害者とスポーツによる変容」「藤井風『死ぬのがいいわ』の突発的バイラルヒットの要因についての考察」「子どもの遊び場としての公園」など心理、福祉、教育、文化に関する様々なテーマの研究があり、熱心な質疑応答が行われました。



後輩からの質問は、論文完成の大きな励みになります

少子高齢化など現代社会の諸問題を扱ったテーマが目立ちました。社会の変化をとらえた研究発表に、在学生は大変良い刺激を受けていました。

05

史学・文化財
学科

4年ぶりの御田植祭

田染荘御田植祭参加記

6月11日、豊後高田市の田染小崎地区では恒例の田染荘御田植祭が開催され、60名の学生が参加しました。新型コロナウイルスの影響で中止や縮小開催が続いていましたが、多くの参加者で賑わうコロナ前の形での開催が4年ぶりに実現しました。



田男、早乙女のコスチュームに着がえて田植えを行いました

し、貴重な交流の機会となりました。今回植えた稲は、秋の収穫祭で刈り取りを行います。多くのご参加をお待ちしています!

◆甲斐萌夏さん (大分県立別府翔青高等学校出身)

大分県初「認定絵本土」の資格を取得できるプログラムに参加し、憧れの保育士を目指して勉強中。バイトやダンス、趣味の「推し活」を満喫しながら優秀な成績をキープし続けている甲斐萌夏さんに学生生活や将来についてお聞きました。

本学入学の理由や保育士を目指したきっかけとは？

保育士になりたいと入学しました。実は姉も同じ学科です。昔から小さな子どもたちのお世話が好きで、友人の家に遊びに行っても、友人よりもその妹と遊ぶことも多かったですね(笑)。中学の職業体験先が保育園で、その時の楽しさもよく覚えています。子どもたちがとにかくかわいくて。

研究会や学校生活での印象深いできごとや、 普段の授業の様子を教えてください

2022年にできた「お話研究会」に所属し、保育園で紙芝居を読んだり、劇をしたりしています。もともとダンスが好きで得意なので、大勢の前に立つのは緊張することもなく、とても楽しく活動できていますね。授業では工作が好きです。個室があり、ピアノの練習がしやすいのも助かっています。1年生の時の模擬保育は大変でした。まだ実習前だったこともあり、準備物をどうするか、それを配るためにどうするかなど、実践的なことが何もわからず苦労しました。試験勉強に関しては、暗記ものは必ず点数がとれるから「絶対に覚えるまでやる」「何回も繰り返す」を徹底。休日はフードコートやピザ屋でアルバイトをして、バイト代を貯めて、全国各地の「推し」に会いに行きます！

成績優秀者しか受講できない「認定絵本土」の プログラムとは、どんな資格ですか

志望者の成績上位40名が受講できるプログラムです。在学中に「取れる資格はすべて取りたい」との思いから受講しました。学外の先生や県立図書館の職員、県外の出版社の方などが講師に来てくださいます。絵本のイラスト技法や絵本の種類・サイズの話、作者が本に込めた想いや制作裏話など、これまで知らなかったお話がたくさん出てくる講義です。週一回の授業ですが、とても楽しく受講しています。これまで、絵本は子どもが読むものと思っていましたが、大人も読むものなんだと実感しています。小さい時に読んだ本も、今改めて読んでみると印象がまったく違うことにも驚きました。保育士になって、子どもたちに絵本の楽しさや魅力を伝えていきたいです。

理想の保育士像はありますか？

保育士の仕事は、大変そうというイメージがあるし、経験者の話を聞けば聞くほど実際には大変なんだと想像できます。それでも、子どもたちの成長を間近で見られる素敵な仕事に変わりありません。保護者にも子どもたちにも信頼される、一人ひとりを見て個性を認めてあげられる保育士を目指しています。明るく元気で、卒園しても会いに行きたくなる先生が目標です。



お気に入りの絵本『わたしのワンピース』
(西巻茅子／こぐま社)



授業で制作した食育の仕掛け絵本

Close up! 別大生

クローズアップ

キラリと輝く
別大生を
紹介します。



三十三間堂大的で全国の頂点に
勉強も稽古も一直線

◆大木優人さん (大分県立竹田高等学校出身)

令和5年1月に京都で開催された弓道の大会「第73回三十三間堂大的全国大会 成人男子の部」。参加男子620名と競い、大木優人さんが優勝を手に入れました。弓道に励むかたわら、各種免許・資格取得のため勉強にも打ち込み充実した生活を送る大木さんをクローズアップ！

大会での優勝、おめでとうございます。 大学ではどのように弓道の稽古をしているのでしょうか

現在は大学の部活と、別府市の弓道会に所属しています。部活は週に2〜3回。僕は平均で週4回は市営の弓道場で稽古しています。弓道会に所属することで活動の幅が広がりました。社会人と一緒に稽古することで礼儀や気遣いなどの社会勉強ができたり、大人の弓の引き方を学ぶことができ、とてもよい環境です。別府市は強豪揃いで、国体の優勝者もいるんですよ。

別府で弓道が盛んだとは知りませんでした。 弓道の魅力とはどんなものだと思いますか？

弓道を始めたのは高校の部活からです。現在3段ですが、在学中に5段まで取りたいと思っています。弓道はキレイにできたと思っても毎回再現できず、かならず課題が見つかっていくもので、そこが難しくもあり魅力でもあるんです。稽古をするごとに自分がパワーアップしていくようで楽しいですね。大会で優勝したときは、新聞にも掲載されたり、周りの人もみんな喜んでくれて嬉しかったです。

別府大学を志望した理由を教えてください

歴史が好きで入学しました。特に、西洋史のナポレオンやフランス革命の時代が好きです。歴史の講義では、今まで知らなかった深い知識が得られ、とても勉強になりますね。教員と公務員を目指しているので、バイトせず公務員試験専門の講座も受けるなど、勉強に力を入れています。

稽古に勉強にと忙しいと思いますが、 大木さん流の工夫やリフレッシュ法はありますか？

ゲームが好きなのでその誘惑に負けそうなときは、友達の家に行ったり図書館に行ったりして環境を変える工夫もしています。空きコマを無駄にせず勉強時間にして、リフレッシュのために弓道します(笑)。休日は友人の家で集まることもあるし、食事やカラオケに行くこともありますよ。

今後の進路や、別大進学を考えている方にメッセージをお願いします

このまま別府で弓道を続けたいので、別府市役所の職員を目指しています。今後も大会や国体に出場できるように稽古に励みます。別府は弓道部がある高校も多いのですが、大学で続ける人は意外と少ないですね。別府大学は弓道の稽古にはとてもよい環境なので、おすすめです。ぜひ一緒に弓道しましょう。



約620人が参加した成人男子の部で、大分県出身者としては初の優勝を果たした



全国大会での活躍に対し、学長表彰を受けました



サークル

沖縄エイサー団



8131BEPPU_OKINAWA
沖縄エイサー団Instagram
沖縄エイサー団 団長
食物栄養科学部
食物栄養学科 3年生
宮崎 海未
(大分県立大分南高等学校出身)

学生からひびく

沖縄エイサー団は、毎週月・木曜日に学食なごみ前のひろばで活動しています。エイサーの練習だけでなく、雑談を交えながら楽しく活動しているので、エイサーを踊ってみたい方は、ぜひ見学にお越しください！ 沖縄県出身学生以外も多数在籍しています。石垣祭でも演舞を披露するので、お楽しみに!! イベント出演のご依頼などもお待ちしております。



サークル紹介

学部、学科を超えた絆は、人生の宝物

居合道同好会は、今年4月から活動が始まったサークルで、男女合わせて6名で活動しています。

居合道は、刀を鞘から抜き、型の演武を行った後、再び鞘に納めるという一連の動作や作法の正確性や美しさを追い求める競技です。心を落ち着かせ、静かにその場で技を決める。緩急のついた美しく洗練された動きが居合道の魅力です。主将の村上颯汰さんは「相手と対戦することを目的にした競技ではありませんが、刀を

洗練された技と静寂の中の美学

振るうときは心の中に相手をイメージして対峙しています。また、激しい動きが無いので、老若男女問わず、どんな人でも挑戦できるという点も魅力の一つです」と語ってくれました。

現在の目標は居合道を多くの人に知ってもらうこと。今後はさらに部員を増やして、大会出場や他団体との合同練習を行いたいと語る村上颯汰さん。武道に興味がある人、大学から新しいことを始めたい人は、ぜひ居合道同好会に入部してみたいかがでしょうか？

学生からひびく

居合道同好会は毎週火曜日16時30分～18時まで第1体育館で活動しています。武道というとハードルが高く感じますが、部員のほとんどが大学から居合道を始めた初心者です。まずは体験からはじめてみませんか？ 刀や帯は貸し出せるので、動きやすい恰好で気軽にお越しください。



8BEPPU_IJAI
居合道同好会Instagram
居合道同好会 主将
文学部
史学・文化財学科 2年生
村上 颯汰
(熊本県立翔陽高等学校出身)



サークル

居合道同好会



国際経営学部 国際経営学科 講師
小野 貴史
Takashi Ono

研究室訪問 学びのトビラ Vol.19

プロフィール

1974年宮崎生まれ、大分市育ち。由布市在住。別府大学文学部史学科考古学専攻卒業後、大分市や佐賀県の教育委員会で埋蔵文化財調査員として発掘調査などに携わる。2001年より(株)大分航空トラベルにて営業・企画・添乗業務に携わる。2021年3月旅行会社を退職し、同4月より国際経営学部専任講師として着任。今年度より津久見市文化財保存活用地域計画作成協議会委員。



旅行会社の一角のような研究室。旅情をそそられます。

実務家教員として、旅行会社をはじめ、観光業界とのつながりを活かす

専門は旅行業・旅行実務
専門は旅行業・旅行実務です。旅行業界はコロナの影響以前より、募集型ツアアの団体旅行から、自由行動の多いハイブリッド型(団体+個人)の旅行形態が多くなっています。修学旅行や社員旅行などの受注型ツアーも含め、自由時間に対応するマイクソロリズムや体験型アクティビティの需要が高まっています。それら多様性・特殊性を専門に扱う旅行サービス手配業者(ランドオペレーター)が急増しています。

実務家教員として
授業では国家資格「旅行業務取扱管理者」に関する科目を担当しています。その他、国家資格ではないですが、「旅行サービス手配業務取扱管理

時代や顧客のニーズに対応するため、旅行素材・観光資源の調査などにより旅行XOをテーマに旅行商品プランを研究しています。具体的には次の5つです。①地域にある資源を活用し、ものづくりの製造工程見学や体験をする「産業観光」、②遺跡や文化財を観光資源として活用する「観光考古学」、③平和に関する資料館や戦争遺構を巡ることで平和とは何かを知り、後世に継承していく「ピースツーリズム」、④災害遺構を巡り、被災者の体験を聞き後世に継承、さらに災害を乗り越え復興後の活用を考えていく「復興ツーリズム」、⑤まちあるきやガストロノミーツーリズム(旅X食)などです。

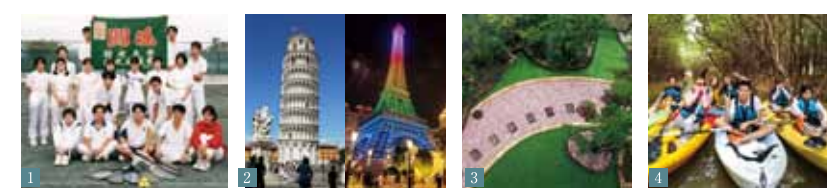
者」や添乗員に関する資格「旅程管理主任者資格」も就職に有利になるため、学生に受験を促しています。

また旅行会社時代からのつながりを活かして、旅行会社、航空会社、バス会社、フェリー会社、ホテル、観光施設の各担当者をゲストスピーカーとして招いています。地方大学の学生でも、地場だけではなく全国組織の旅行・観光業界の仕事を理解したうえで、就職活動につなげてくれればという思いで実施しています。

地域に飛び出すゼミ活動
観光分野における地域活性化を目的に企業や団体と地域連携を実施しています。昨年度は大分みらい信用金庫とInstagramフォトコンテストを実施し、写真や動画により大分県の観光をPRする活動をしました。ゼミ生にはなるべく多くの旅行・観光業界の現場を感じられるように、ホテル施設見学や空港見学、別府八湯ウォークやONSENガストロノミークッキング、ぶどう農園などに訪問や参加をしています。さらにゼミ研修では、世界遺産、リゾートホテル、戦争遺跡など多くの観光資源や施設のある沖縄へ現地視察に行っています。個人ではできないこのような活動を通じて、学生が卒業論文や就職活動につなげてくれることを期待しています。

「すべての道は〇〇に通ず」
無駄なことは何ひとつなく、必ずい

～ Other sides of Takashi Ono ～



■学生時代はテニス部に所属。妻とはサークルで知り合っています。ちなみに、妻の家族(姉、両親)は全員別府大学短期大学部を卒業しています。■国内をはじめ、アメリカ、フランス、イタリア、マカオ、マレーシア、インドネシア、タイ、シンガポール…と多くの国や地域に仕事で行きました。各地で撮影していた写真は授業でも活用しています。■旅行会社勤務最後の年であった2020年、雇用調整助成金の特例措置(コロナ特例)を利用した休業期間中に自宅庭を手作りでリフォームしました。雑草を一掃し、人工芝や砂利を敷きました。■世界自然遺産に登録(2021)されたやんばる地域でのゼミ活動。沖縄本島最大のマングローブ「慶佐次川(ヒルギ林)」(国頭郡東村)での自然観察体験。



山田 美耶さん

短期大学部 経営情報文化科
平成14年度卒業湯平温泉 清流とほたるの宿 高尾荘
由布市湯布院町湯平503-18
TEL.0977-86-2046視野が広がった短大時代
旅や温泉の良さを体感してほしい

湯平温泉 清流とほたるの宿 高尾荘 女将
は接客のた
びに緊張し
ていたそう
ですが次第
に女将業が



「営業できるだけありがたい」と語る、3代目の仲良し夫婦

大分県由布市にある湯平は、鎌倉時代から続くと言われる温泉街。その川沿いに佇む「清流とほたるの宿 高尾荘」で、結婚を機に女将になった山田美耶さん。ご主人、そして義母の3人で宿を切り盛りしています。

山田さんの出身は由布市の狭間。高校を卒業後、短大の経営情報文化科に進学し、旧大分キャンパスに通いました。梶原博先生のゼミに入り、狭間町のホームページの更新や、パソコン講習のアルバイトをしたりとアクティブに活動。

「湯平温泉に宿泊したこともありまよ。その時はまさか、自分が女将になるとは思っていませんでした。観光や温泉など、大分県に関することをたくさん学び、魅力に気づきました。学生時代はとにかく楽しくて、あっという間の2年間でしたね」

短大卒業後は不動産鑑定の事務所に就職。9年間、書類作成や電話対応などの業務を行いました。30歳で結婚し、旅館の女将に。最初は接客のたびに緊張していたそうですが、次第に女将業が

板に付いてきました。当時5歳と1歳の子育てにも奮闘する中、2020年7月、湯平温泉は豪雨災害に見舞われました。

「旅館は浸水し、営業が困難になりました。また、災害とは関係なく義父が他界。緊急事態宣言もあけてやっと営業再開した矢先に、いろいろなことが重なり諦めそうになりましたが、お客様や周りの人たちに支えられて、なんとか営業を再開することができました」

自然豊かで温泉が身近にある湯平。四季折々の景色の中、子どもたちも都会にはない体験ができる環境だと語る山田さん。「湯平は肩肘張らずに過ごせる場所。旅館の仕事が楽しい」と微笑みます。

「学生時代でしかできない経験があります。若いうちに、県内外を旅行してほしいですね。いろんな場所を見て、食べて、人と触れ合うことで広い視野を持てます。もちろん、湯平温泉もおすすです」とにっこり。これからは変わらず、明るく旅人を迎え続けます。



短大時代は茶道部に所属。文化祭ではお茶会を開催しました

ビストロ輝オーナー

糸永 吉輝さん

食物栄養学部 食物栄養学科
平成18年度卒業ビストロ輝
別府市石垣東3-1-8 高橋ビル1F
TEL.0977-26-7735 /
11:30~15:00.
17:30~22:00 / 水休
bistro_teru気軽に楽しめる
フランス料理を提供したい

フレンチレストラン「ビストロ輝」のオーナー糸永吉輝さんは、食物栄養学科の第1期生。宮崎県から大分県の楊志館高等学校調理科へ転校し、同級生のほとんどが就職する中、本学へ進学しました。

「食材は、生から火を入れると食感も味も変わります。その理由や栄養素の変化など、科学的なことが知りたくて進学しました。食材そのものについて、突き詰めて掘り下げたかったです」

在学中は熱心な生徒でなく、小説を読みふけったり、学校を休むことも多かったという糸永さん。学生生活で印象的だったのは病院研修です。集団で食事を作り、役割分担し、制限のある中で目的を果たす。お店へ出かけて楽しみながら食べる食事とはまったくベクトルの違う病院食のあり方に刺激を受けました。

「この経験は現在にも繋がっています。普通の食事ではあまりない工程や発想があるので、自分にはなかった引き出しになっていきます」



エディブルフラワーの彩りが美しいローストビーフのサラダ

卒業後は中華料理の道を志し、希望するものの、タイミングが合わずに断念。

縁あって杵築のフランス料理店「ミウラ」へ就職します。同店でフランス料理の基礎を教わり、パンやケーキ作りも経験。本店4年、2号店では店長として2年間勤務しました。

転職が訪れたのは30歳、さらなる経験を積もうと東京へ。4年半ほどの東京生活ではレストラン、ビストロ、ベーカリー、イタリアン、和食を経験しました。

別府に戻り、2022年1月に「ビストロ輝」をオープン。「私は高級店が苦手なので、フレンチのハードルを下げるようにですね。高価な食材だけを使うのではなく、身近な食材と組み合わせたメニューを中心に提供しています。働きながらも、理論的なことを知りたいという欲求はあります。少し違っていたら、研究者になつていたかも。この店だけで終わらせるつもりはないので、今後については模索中です」と、糸永さん。

常連さんも定着しつつある中、新たな挑戦への意欲も膨らんでいます。



初めて自分用に購入した筋引き包丁は、14年間の愛用品。ペティナイフは「ミウラ」のオーナーからいただいたもの

地域連携



中津市山国地区へ 災害復興支援ボランティアを派遣

令和5年7月10日の大雨により中津市山国地区を流れる山国川が氾濫し、近隣地域に甚大な被害をもたらしました。これを受け、別府大学・別府大学短期大学部では、県内の被災地復興の一助を担うべく、7月14日(金)より被災者支援ボランティアの募集を開始し、7月17日(月)に中津市山国地区へ第一次被災者支援ボランティア(学生・教職員)を派遣しました。

今回のボランティアには、学生39名、教職員6名の計45名が参加し、土砂の搬出やがれきの撤去、住宅の不要物の運び出しなどのボランティア活動を行いました。当日は気温が35度を超える猛暑日でしたが、熱中症に注意しながら学生たちは懸命に復旧作業に取り組みました。地域住民や中津市社会福祉協議会の職員のみならずのご協力もあり、無事に作業を終えることができました。

被害に遭われた地域の皆様の一日も早い復興を願い、今後も本学として力になれることを考えていきたいと思っています。



養魚場に入り込んだ泥を掻き出す学生たち



材木所に散乱した木片の片付け



出発式にて

県産酒CHILL BAR 「at10」に参加



ムギーバックをPRするおおい県産酒サイコウ!部メンバー

大分県産酒の魅力を発信する「CHILL BAR at10」(チルバーアットテン)が、今年度も令和5年9月15日～30日に、アミュプラザおおい1階に期間限定でオープンしました。

昨年3月の開催に続き、別府大学の学生が「おおい県産酒サイコウ!部」として参画し、今回は大分むぎ焼酎を使ったカクテル「ムギーバック」とそれに合うおつまみとして三種の「ディップカナッペ」を開発しました。ムギーバックは、むぎ焼酎とジンジャーエールを合わせ、カボスをトッピングしたさわやかなカクテルで、お客様にも大好評でした。これを機に、大分発のカクテルとして「ムギーバック」が全国に広まってほしいです。

ムギーバック(左)と県産食材を使ったおつまみ「味うさディップ」(右)



国際交流



国際セミナー4年ぶりに開催

7月19日から4年ぶりとなる「別府大学国際セミナー」を開催しました。

本学の国際セミナーは、本学と友好関係にある東アジアの大学生や高校生が別府大学に集まり、2週間コース、3週間コースに分かれて、日本語を学ぶとともに日本文化の理解を深めるプログラムです。毎年夏に開催していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっていました。今年は両コース合わせて、韓国・中国・台湾の3か国から85名の受講生を迎えました。

受講生は、鉄輪の温泉旅館に宿泊しながら、別科日本語課程での日本語授業の受講や茶道・華道・書道・浴衣などの日本文化体験、在学生との交流会、県内の史跡・名所巡りなどのプログラムに参加し、日本語や日本文化の理解を深めました。

8月5日の閉校式では、代表の受講生が「他国の学生と交流ができてかけがえない思い出ができた」「毎日が楽しく、もっと別府に滞在したかった」など、滞在中の感想を述べました。来年の国際セミナーでもさまざまな出会いがあることを願っています。



浴衣に着替えて記念撮影



在学生との交流パーティー



閉校式で挨拶する友永植学長

ヴェルニッツ先生による特別講義を実施しました



国際言語・文化学科の学生に講義をするヴェルニッツ先生

5月22日～31日の日程で、交換教授事業の一環として提携校であるフランス・モンペリエ第三大学から、フィリップ・ヴェルニッツ(Philippe Wellnitz)先生が来学されました。ヴェルニッツ先生はドイツ文学が専門で、様々な国や地域の文化の比較も研究テーマとされています。24日には、文学部国際言語・文化学科の英語コースの学生を対象として、フランス語・フランス文化の紹介や、韻文・散文と演劇の比較などに関する講義を英語で実施していただきました。ヴェルニッツ先生は、「先生方も学生の皆さんもとても優しく、感謝しています」とおっしゃっていました。先生の来学を機に、モンペリエ第三大学との交流がさらに活発になることを願っています。

